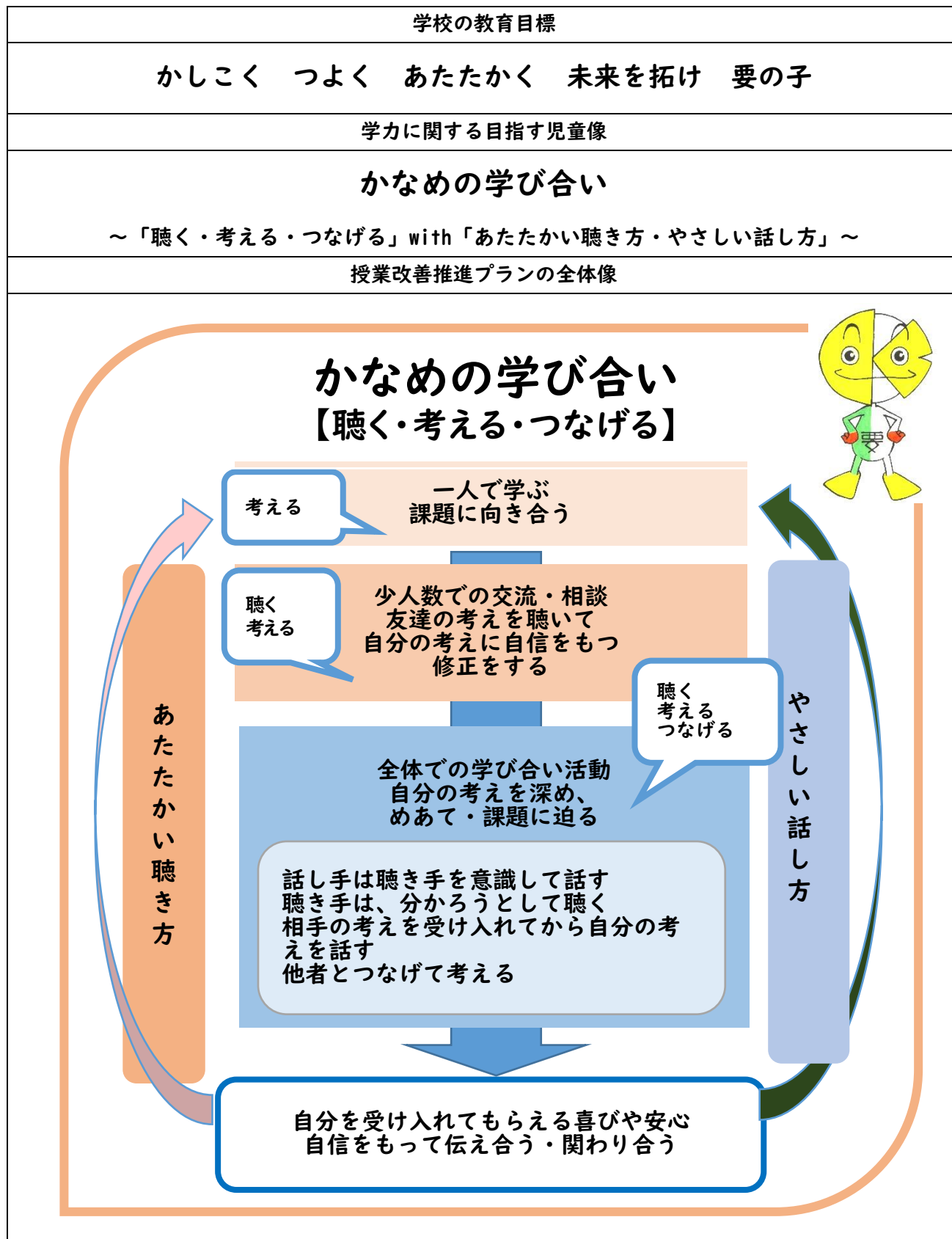


学校名	豊島区立要小学校
校長名	渡部 貴美子



令和7年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言語活動を通して、読み書きの基礎を身に付け、適切に表現する資質・能力を育成する。 →朝学習（要タイム）を活用して、基礎基本を定着。 自分の言葉で発言したり、みんなで話し合ったりすることができる力を育成する。 →「初め・中・終わり」の文型を意識した作文や発言（自分の考えをしっかりとつ）。 →話し合い活動での学び合い。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	○学ぶ姿勢を育成できた。 △3週間かかるので、その後の学習が予定通りにいかない。	・スタートカリキュラムありきの年間指導計画を作成する。 ・他教科との関連を踏まえ、カリキュラムマネジメントを行い、学習を精選していく。
低	○ペアでの話し合いができるようになった。 △語彙量少なさや平仮名がまだ定着していないことで、自分の考えをもったり書いたりできる児童とそれが難しい児童がいる。 △作文用紙の書き方…… ～は、～をの使い方、句読点。 △カタカナ（ツ シ ン ソ）、漢字の習得。 △自分が思ったり、考えたりしたことを伝えることが苦手。	・一人で考える時間もとるが、書くに拘らず、話したり伝えたりすることで自分の考えがもてるようになることを教員が意識し、意図をもって指導する。 →教科書の文を視写する機会を増やす。 見直しを行う。 →朝学習での復習 →自分の考えをまとめる時間を確保し、2人組や3人組での伝え合いの時間を多く設定し、慣れさせていく。
中	△語彙力がなく、文章を書く力が乏しい。 △学力調査では、説明文を読み取るかに課題がある。 ○トリオでの話し合いが定着しており、学び合いの風土が生まれている。	→教科書の「言葉の宝箱」を積極的に活用し、語彙を広げていく。必要に応じて辞書を引き、言葉の使い方の例を増やししながら表現力を高める。さらに、文章の型を繰り返し練習することで、書きやすさを身につけさせる。 →授業では、説明文を書いた筆者の問いを意識させたうえで、段落ごとに要点をまとめ、結論につなげる力を育てる。また、朝学習（要タイム）や音読の時間には短い説明文を繰り返し読み、筆者の問いと結論を確認させることで、論理の流れを自然に身につけられるようにする。
高	△「初め・中・終わり」を意識して文章を書くことに課題がある。	→「初め・中・終わり」を意識できるように組み立て表を作成し、それを基にして文章を書くようにしていく。また、構成を考える際にタブレットPCも活用できるようにしていく。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする力を育成する。また、我が国の将来を担う国民としての自覚や世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。 →体験差を補うためにタブレット PC 等を活用。 →社会科の見方・考え方を身に付けられるような課題解決学習の設定。(低学年から意識して行う。) →視点を明確にした資料の読み取り。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	△豊島区や東京都の様子について、家庭での体験差により、知識差がある。 △課題をあまり感じずに日常生活を過ごしており、問題解決学習への意欲が乏しい。	→タブレット PC 等を用いて動画や疑似体験を取り入れ、多様な学びの機会を保障する。実際の体験に差がある児童にも、疑似体験を通じて理解を深めさせ、学びの格差を縮めることをめざす。 →指導者が日常的に社会科的な見方や考え方を示し、問いかけを工夫することで、児童の地域への興味・関心を高める。身近な課題を引き出し、自ら考え学ぶ姿勢へとつなげていく。
高	△資料を読み取り、自分の考えを表出することが苦手な児童がいる。	→資料を精選する。資料の中でも、どこに注目するか視点をもたせて読み取る時間を授業内に設けていく。 →学び合いの時間を設けて、自分の意見や考えに自信をもてるようにする。さらに、ICT 機器を活用して考えを表出しやすいように支援していく。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
自分の考えを数学的な表現で簡潔・明瞭・明確にまとめ、互いに説明し合い、話し合いの視点を明確にして議論する力を養い、数的処理力（計算力）、数量感覚、図形処理力、論理的思考力と表現力の5つを育成する。 →基礎基本の定着のため朝学習を活用。 →自分の考えを広げたり、深めたりするために伝え合いを行ったり、友達の考えをノートに写したりして学び合いをしていく。 →体験活動を充実させ、教師が意図的に日常の中で結び付けて提示していく。 →自力解決のヒントとなるよう視覚的な提示を行い（見通しをもたせる）、自分の考えをしっかりとまとめる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	○学ぶ姿勢を育成できた。 △3週間かかるので、その後の学習が予定通りにいかない。	・スタートカリキュラムありきの年間指導計画を作成する。
低	○具体物を操作しながら自分の考えを表現できた。 △友達の意見を最後まで聴かずに自分の意見を言うことがある。 △時計の読み方。午前・午後・正午の使い方、時間（○○分前や◇◇時間後など）の計り方。 △繰り上がりや繰り下がり計算を苦手としている。 △定規を使って、決められた長さを書くことや単位の換算。	・自分の意見を発表する際に、始めと終わりの話形を提示する。 →具体物を使って、日常的に練習。保護者との連携。 →10までの合成を繰り返し練習。 →朝学習で、書く練習を多く取り入れる。また、単位の換算練習の練習を行っていく。
中	△全体として数的処理力が低く、基礎的な計算に時間がかかる傾向がある。 △数量感覚が十分に育っておらず、量や大きさを実感しにくい児童が多い。 △自分の考えをもつことはできて、それを式や図に正しく表すことが難しい児童が見られる。	→朝学習（要タイム）を活用し、正確な数的処理を繰り返し練習させる。日々の積み重ねによって基礎的な計算力を確実に身につけ、問題解決の土台を強化していく。 →授業内で長さを測る、重さを量るなど実際に手を動かす活動を重ねることで、数量に関する感覚を少しずつ養う。経験の積み重ねから実感を伴った理解につなげる。 →自分だけでなく他の児童の考えもノートに記録させる。図と式を並行して確認することで、数量関係を視覚化しながら式へと結びつけ、表現力を伸ばしていく。
高	△計算の仕方は理解しているが、文章題を読んで、なぜその式になるのか、説明したり表現したりする力に課題が残る。 △数と計算の領域では、ケアレスミスが見られる。	→学び合いの時間に、立式の理由を少人数で発表していく。その中で、自分の考えに自信をもったり、修正したりできるようにしていく。 →要タイムや家庭学習を中心に計算練習に取り組み、タブレットPCも活用しながら習熟を図っていく。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
自然の事物・現象の性質や働きについての理解を深めるとともに、観察・実験や学び合いの活動を通して、問題解決する力を育成する。 →生活経験の差を補うため共通体験を行い（児童の持っている情報の共有やタブレット PC の活用、学級での体験活動など導入の工夫）、児童が自分で問題を見付けていくしかけ作りを行う。 →「問題→予想（仮説）→手立て→実験→考察→結論」の課題解決学習の流れを定着させるため、<u>板書を全校で統一していく。</u> →タブレット PC 等を使った実験方法の確認。→自力解決できるよう、視覚的な資料の提示。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	△生活経験の差から、問題意識や予想を立てる力に大きなばらつきが見られる。 △基礎的な実験技術が十分に身につけておらず、道具の扱いや操作の正確さに課題がある。実験の結果をうまく考察につなげられない児童もいる。	→単元に入る前に、学級全体で関連する体験活動を十分に行う。実際に見たり触れたりする経験を重ねることで、共通の土台をつくり、問題や予想を立てやすくし、学びの出発点をそろえる。 →実験の様子をタブレット PC で撮影し、手順や操作を振り返らせる。映像で確認することで、正確にできているかを自ら気づきやすくし、実験技術の習得や改善につなげるとともに考察力を高める。
高	△結果から考察する力に課題がある。	→考察を書く際のポイントを示しておく。学び合いの時間には、一人→少人数→全体の話し合いをしっかりと行う。自分の考えに自信をもったり、修正したりし、よりよい考えになるようにしていく。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりでとらえ、比較や分類、関連付け、試行、予測、工夫などをすることを通して、自分自身や自分の生活をよりよくしようとする態度を育成する。 →児童自らが問題を見つけ、学びを作るよう、教師が意図的な授業を行う。（理科・社会・総合の土台） →地域や保護者との体験活動を多く取り入れていく。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	○遊びから学習へのつながりになった。	
低	○2年生と連携して学校探検を行うことで、その後の学習につながった。 ○国語「かんさつ名人になろう」の学習で、観察のポイントを決め、細かな視点で観察できていた。 △まちたんけんを基にした、地域との交流。	→今後もポイントを絞った見方や考え方ができるようにしていく。 →地域との交流の機会を増やしていく。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽的な見方・考え方を働かせ、友達と協働しながら音楽表現を生み出したり、自分の思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育成する。 学びを振り返り、身に付けたことを次の学習や生活の中に生かし、音楽と豊かに関わっていこうとする資質・能力を育成する。 →音楽的な見方・考え方を引き出すため、常時活動などの継続した学習を設定し、知識理解を深める。 →主体的に学習を進めるワークシートの工夫と評価が見える振り返りの充実。 →課題を深める学び合い学習を取り入れる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○歌唱の学習では、意欲的に取り組んでいる。 △しっかりと耳を傾けて音を「聴く」ことに個々の差がある。	→元気の歌声を生かし、発声に気をつけながら丁寧に歌えるようにする。 →拍を体で感じ取ることを基本にしながら音色に興味・関心をもって耳を傾けられるような題材を段階的に取り入れて学習を進める。
中	○歌唱の学習では、表情豊かに明るい声で、丁寧な発声を意識しながら、意欲的に取り組んでいる。 △音楽的な見方・考え方を働かせるための知識と経験に差が大きく、自分の思いや考えを音楽で表現できる児童が多くはいない。	→よい響きのイメージをもたせた発声の仕方を基本に、歌唱表現を工夫しながら主体的に取り組める学習課程を構築する。 →常時活動や題材と関連性をもたせながら、音楽的な見方・考え方を引き出すための知識をスモールステップで得ていけるようにする。
高	○具体的な課題に向かって主体的に取り組んでいる。 △器楽領域では、技能の力に差が大きい。	→主体的に学習を進められるようワークシートを活用し、振り返りがしっかりと行えるようにする。個々の学習を生かして、グループ課題に向き合えるような学習展開を工夫し、評価が見えるようにする。 →器楽では、個の力量に合わせた課題を設定し、協働学習で友達と音を合わせながら合奏のよさや楽しさを味わえるような学習展開を工夫する。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
つくりだす喜びを味わいながら主体的に造形活動に取り組み、様々な関わりの中で自分の見方や感じ方を深め、楽しく豊かな生活を創造しようとする児童を育成する。 →児童の意欲・関心を引き出す題材設定。導入の工夫によるめあての明確化。 →様々な造形体験、自他の活動の振り返りの充実。 →発達段階や個に応じた指導。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しく活動に取り組むことができる。 新しいことにも積極的に取り組むことができる児童が多い。 △形や色などの感じを基に自分のイメージをもち、発想や構想をすることに課題がある児童がいる。	→児童の興味・関心を引き出すような題材設定とともに、視覚的にわかりやすい導入で、めあてをそれぞれが理解できるようにする。 →様々な造形体験を通してつくりだす喜びを感じられるようにする。活動の振り返りを通して、自分や友達の作品の面白さや楽しさを感じ取れるようにし、自他を認めることができるようにする。
中	○発想力が豊かで、楽しく積極的に活動に取り組むことができる児童が多い。 △材料や用具を適切に扱い、手や身体全体を働かせて表し方を工夫することに課題がある児童がいる。	→材料や用具の適切な使い方や表し方の工夫を身に付けられるよう、必要に応じたタイミングで指導し経験を積み重ねられるようにする。 →様々な造形体験、活動の振り返りを通して、つくりだす喜びを感じられるようにし、友達との関わりを通じて見方や感じ方を広げられるようにする。
高	○主体的に活動に取り組むことができる児童が多い。 △めあてを自分なりにとらえて課題を設定し完成まで取り組むことに課題がある児童がいる。	→経験を総合的に生かせる題材の設定をし、より主体的に取り組めるようにする。 →めあてを毎回振り返り、自分なりの時間の使い方の見通しがもてるようにする。児童のおもいに寄り添うと共に、友達との関わりを通じて見方や感じ方を広げ、自信をもって活動できるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
衣食住や消費・環境などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭を大切にする心情や家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成する。 →企業からの出張講師を招くことにより興味関心を高め、日常生活に活用できる専門的な知識を身に付けさせる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	△調理の経験の少なさから、基本的な手順の判断の間違が多い。 ○裁縫の実技で個人差は大きい、丁寧に粘り強く仕上げようとする意欲がある。 ○協力してグループ活動に取り組むことができ、教え合う関係性ができている。 △裁縫の技能では個人差が大きく完成時間に差がある。	→授業を通して、基本的な調理の知識を丁寧に伝え、ワークシート等を活用し定着させる。 →個別に対応することで苦手意識を取りのぞく。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
タブレットPCを活用し、効果的に振り返ったり、自分の運動する姿を見返したりすることで課題を明確にし、課題解決に向けて話し合ったり、試行錯誤しながら学ぶことができる。また、課題解決に向けて自分にあった練習の場を選択し、個別最適な学びを進めることができる。 →児童の課題がある動きについては、授業の導入等を使って継続して取り組む。 →話し合い活動をすすめるために、話し合いの型を提示したり、話し合いの素地である円滑な人間関係を築く。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○ルールや学び方の徹底をした。 △固定施設を使った運動は、興味をもって取り組んでいる。しかし、一部の児童が、鉄棒の技への興味が無いと感じる。 △スポーツテストで実施した投の運動では、ボールを遠くへ投げることが課題。	・スタートカリキュラムの中に遊具での遊びや体力テストに関連する活動を取り入れる。 →小さい学年の内から、鉄棒を使っの逆さ感覚を身に付けたり、回転する感覚を身に付けさせていく。 →スポーツテスト前から投の練習を始めたが、2年生は伸びが感じられなかった。今後も、継続して投げる力をつけていく必要がある。
中	△走ることに意欲的であるが、道具を用いた運動や複雑な動きには抵抗感があり課題が見られる。 △体力テストでは投げる動きや持久力に弱さがあり、基礎的体力の向上が必要である。 △チームでめあてに向けて話し合う活動では意見がまとまりにくい点が課題となっている。	→動きを細分化して段階的に説明し、動画でお手本を提示する。さらに自分の動きを撮影して比べさせることで、改善点を具体的に把握できるようにし、運動技能の定着を図る。 →投げる動作の基礎練習や持久力を養う運動を、授業の中に日常的に組み込む。小さな積み重ねを通して基礎体力を高め、自信をもって活動に取り組めるようにする。 →話し合いの型を明示し、めあてに到達する流れを意識させる。発言の順序や役割分担を明確にすることで、意見が整理されやすくなり、チームで協力して活動を進められるようにする。
高	△体力テストの結果から、男女で体力の差が激しいことがわかる。どちらも瞬発力に関する種目に課題がある。	→学習の導入で、特に瞬発力を上げるための取組を継続して行っていく。

I 0 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。 →話す・聞く場面を意図的に多く設定。あたたかい聴き方・やさしい話し方を意識させる。 →高学年では、書く時間を設定。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しく活動している。 ○1学期の間に4回英語活動を行った。毎回楽しみながら、フルーツや動物などの名前を覚えていった。	→これからも声に出して言う機会を多くし、興味をもって取り組めるようにしていく。
中	○積極的に声を出し、英語活動を楽しんでいる児童が多い。自分から英語を使おうとする意欲も見られ、授業全体に明るい雰囲気広がっている。	ALTと連携して、個別やペアだけでなく全体の場での発表の機会を増やす。人前で英語を使う経験を重ねることで、自信を付け、さらに自然に英語に慣れ親しんでいけるようにする。
高	○ヒアリングは概ねできている。 △積極的なコミュニケーションが乏しい。 △大文字小文字の区別をしながら罫線に書いていくことに不慣れな児童がいる。	→個別やペアだけでなく、全体で発表する場を増やす。英語で発表する機会を多く経験することで自信を付け、コミュニケーション能力をより高めていけるようにする。 →教科書にある簡単な語句を中心に書く活動を増やしていく。また、タブレット PC や資料を基に自ら調べて書く活動を増やしていく。

I 1 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養い、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。 →展開での自我関与（主人公を通して、自分を投影）を充実できるよう、教師の問い返し。 →見つめなおし（振り返り）での視点の提示。 →実際の生活場面での結び付け。（別葉の活用含む） →あたたかい聴き方で共感的に聞くことで、発言しやすくする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○自分事として捉えることができ、「あたたかい聴き方」をしている児童が多い。 △自分の考えを伝える力に差がある。 ○教科で苦手な児童も、自分の思いを伝えるこの学習では、たくさん発表している。	→発表の機会を多く取り入れるとともに、振り返りの視点をはっきりと提示し、授業後段で自分だったと個に戻して考えるようにしていく。
中	△児童が題材を自分事としてとらえることができず、登場人物の思いや状況を十分に結びつけて考えられていない。	→授業の中で常に「自分だったらどうするか」という視点を意識させ、登場人物の立場に立って考える活動を繰り返すことで、主体的に学ぶ姿勢を育てていく。
高	△模範的な回答はできるが、実際の行動に結びつかない部分がある。	→学習した内容をトラブルが起きたときに振り返るようにすることで、実際の行動につながっていくようにする。

1.2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
・実社会や日常生活の中から問いを見だし、自ら課題を立てて取り組む力を育成する。その過程でタブレット PC などの ICT 機器を活用し、必要な情報を集め、整理・分析したうえでまとめ、適切に表現できるようにしていく。 →体験活動を重視し、学級内での伝え合いや体験の共有を学びの基盤とする。互いの経験や気づきを交換することで、多様な視点から考えを深め、自分なりの課題を見いだす力を養う。 →自分の考えを筋道立ててわかりやすく伝える練習を積み重ねるとともに、相手の考えを受け止める姿勢を大切にする。話し合いを通じて相互理解を深め、課題解決に向かう協働的な学びをつくる。 →発表活動では「あたたかい聴き方・やさしい伝え方」を意識させる。資料の見せ方や声の大きさ、話す順序などに工夫を凝らし、相手に伝わる表現を心がけることで、表現力と自信を高める。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	△児童によって生活体験に差があり、その結果、学習課題を個人で見いだす力にばらつきがある。 △十分な体験をもたない児童は、学習に必要な問題意識を持ちにくい傾向が見られる。	→共同で学ぶ活動において意見交換や協力が進みにくいことが課題となっている。 →話し合いや交流を通して体験を共有し、また日々の学校生活で実際の体験を増やす機会を設ける。これにより体験差を少しずつならし、すべての児童が学習課題を見だしやすくする。
高	△調べること、発表することに個人差がある。	→発表する機会を積極的に設けることで、個人差をならしたり、他者意識をもって発表ができるようにする。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合って合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力し合うことができるようにする。 →あたたかい聴き方（相手を見る、相づちを打つ、うなづく、拍手等）・やさしい話し方（反対意見の言い方、反対の時の代替案等）を実践する。 →小グループでの話し合いを多く設定し、司会をなるべく多く経験させる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○自分の意見をもてる児童が多かった。 ○順番に司会グループを出して話し合いを進めてきた結果、それぞれの役割を理解することができるようになってきた。 ○学級会では、自分の考えを理由を添えて言える」ようになってきた。	・自分の考えがもてるような議題を設定する。 →黒板書記を担当したい児童が多い。司会としてみんなの考えを整理していく力も育てていきたい。 →言うだけでだけでなく、相手の話を聞く際には、うなづく、相づちを打つ等、あたたかい聴き方を実践し、自分としてはどうなのかと比較しながら聴れるようにしていく。
中	△話し合いの場面で、自分事としてとらえられず、他人事のように参加している児童がいる。そのため、意見交換に主体性が欠け、学び合いの深まりに差が生じてしまうことが課題となっている。 △話し合いの進行を担う司会の力が全員には十分についておらず、発言の調整やまとめが難しい場面が見られる。学級全体で均等に力をつける仕組みづくりが必要である。	→少人数での話し合いを増やし、一人ひとりが発言や役割を担いやすくする。小集団での活動を積み重ねることで、参加意識を高め、話し合いに主体的に関わる態度を育てる。 →国語とのカリキュラム・マネジメントを図り、少人数での司会を全員が体験できるようにする。経験を通して司会の役割や進行の仕方を学ばせ、徐々に学級全体で力を伸ばしていく。
高	○話し合い活動をする中で、他者の意見の良いところを取り上げつつ、代替案を示すなどして、より良い意見にできている。 △全体での話し合いでは、グループで発表した意見を言わず、他者の意見に合わせてしまう児童がいる。	→繰り返しグループでの話し合い活動に取り組み、自分の意見を伝えることに少しずつ慣れていく。また、どんな意見も安心して発表できるように、聴く側の姿勢を醸成していく。

Ⅰ 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	○学年行事に参加。グループに入り、自然な中で関わりができています。 ○学校探検や遠足（に行けなかったの で、1・2年生と一緒に遊ぶ）など、1・2年生で交流している。 ○たてわりの活動も、スムーズに入 れることができた。	→各行事の関わりだけでなく、日常の中でのやり取りを意図的に作っていく。 →各行事の関わりだけでなく、日常の中でのやり取りを意図的に作っていく。 →たてわりの活動だけでなく、日常の中でのやり取りを意図的に作っていく。
中	○学年行事や理科社会科総合的な学習等に参加できている。	→授業内での交流をさらに図っていく。
高	○学校行事を中心に交流を図っている	→教科学習を深められるように計画していく